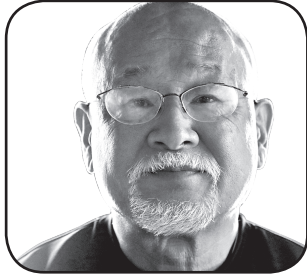


特集 たけはら魅力再発見

Vol. 4

第4回目となる今回は、昭和56年に広島県無形民俗文化財に指定されている「福田の獅子舞」の保存会の代表、中村秀司さんにお話を伺いました。



福田の獅子舞保存会
代表 なかむら ひでし 中村 秀司さん

●福田の獅子舞～五穀豊穡と村の繁栄祈願～

福田町では、10月の第1日曜日に、稲生神社で福田の獅子舞が奉納されています。獅子舞は、江戸時代に四国方面から伝わったもので、当時、天災や疫病に悩んでいた人たちが獅子舞を奉納し、五穀豊穡と村の繁栄を祈願しました。

獅子舞は、太鼓を打つ男児の後ろで獅子が上下左右に動き、かみつく様子を表し、太鼓により獅子を追い払い苦行を克服することで、大人へ成長すると言われています。

男児はその年の12歳になる4人が選ばれ、32通りに打ち分ける太鼓の打ち方など、代々受け継がれた厳しい訓練を1か月間受けます。12歳が選ばれる理由は、疫病が流行した時、12歳の子供が最も多く病気にかかったため、病気を克服し健康で育つようにとの願いが込められています。

●福田の獅子舞を後世に伝えていくために

新型コロナウイルスの影響により、獅子舞の奉納は中止していますが、練習は毎年行っており、奉納の代わりに福田町のふれあいサロンで披露しています。また、大乘小学校では福田町の文化を大事にしようという教育の一環で獅子太鼓を指導しています。昔は厳しく指導していましたが、あまりに厳しいと獅子舞が嫌になってしまいますので、私は良い所は褒めて、楽しく練習できるように気をつけています。

現在、5年生だけでなく、4～6年生の3学年の男児が集まって福田の獅子舞を練習しています。少子化により、今後どのように継承していくかが一番の悩みです。福田の獅子舞を後世に伝えていくため、まずは子供の時に覚えてもらって、大人になって戻って来てくれたらなと思います。

●地域の伝統文化を知ってほしい

福田の獅子舞のように、どこの地域にも伝統文化はあると思います。中には昔はあったが、いつからか途絶えてしまったものもあると思います。ぜひ、自分の生まれた地域にどのような伝統文化があるのか、あったのかを知ってほしいですね。



福田の獅子舞保存会

昭和48年に結成。会員は約20人。子供達への福田の獅子舞の指導や、県や市から依頼があればイベントに参加するなど、伝統文化の継承と周知活動を行っている。



▲練習は9月から毎日行い、バチさばきを1つ1つ丁寧に教えていきます。



▲10月16日、福田町のふれあいサロンで福田の獅子舞を披露しました。

左から増谷勇輝くん、嶋村瑠生くん、木村楓くん、森下陽介くん。